



第5回通常総代会 議案書ダイジェスト

編集：総合企画室 TEL 025-260-3351

ホームページアドレス <https://niigata.coopdeli.coop/>

コープデリにいがた 検索 🔍 2026年5月25日発行

○このダイジェストは総代会議案の要旨をまとめたものです。さらに詳しい内容を知りたい方は、総代会議案書をお届けしますので、宅配センターまたは地域担当者にお知らせください。
○ダイジェストについての質問・意見・感想などは、総合企画室までお寄せください。

第1号議案 2025年度事業報告・決算報告および剰余金処分案承認の件・監査報告

I 2025年度事業活動のまとめ

1. 2025年度の概況（2025年3月21日～2026年3月20日）

- ①1年間の総事業高は289.4億円（予算比101.6%）と好調に推移しましたが、物流委託費や人件費の増加、夏季一斉休業等の反映により、経常剰余金は前年比79.5%（約5.6億円）となりました。
- ②相次ぐ値上げの影響で、組合員の利用点数は減少傾向にあります。これに対し、「生活応援大感謝祭」や「くらし応援キャンペーン」を強化し、客単価の上昇（前年比101.4%）によって供給高を確保しました。
- ③ウイークリー（宅配）事業の供給高が計画を上回ったことに感謝し、ご利用金額に応じた「特別感謝ポイント還元」を実施しました。
- ④2024年産米の集荷量が前年の7割という厳しい状況下において、抽選制の導入や政府備蓄米・輸入米の追加調達を実施しました。次年度は産地連携による安定調達と「登録米」軸の体制強化を急ぎます。
- ⑤組合員数は年度末で246,972人となり、新潟県内世帯数の26.8%を占める規模となりました。
- ⑥新規加入者は1.4万人（予算比104.9%）と好調でしたが、手数料無料期間が終わる「8週後」以降の利用定着率が低下傾向にあり、2年目以降の利用定着が喫緊の課題となっています。
- ⑦職員の負担軽減と人材確保を目的として、8月に5日間の一斉休業を実施しました。事前周知の徹底により、98%以上の組合員に認知いただき、休業前後のまとめ買い企画によって供給高への影響を最小限に抑えることができました。
- ⑧組合員満足度調査では、コープデリグループ全体の中で地域担当10か条遂行度ランキング1位を獲得しました。また、安全運転の取り組みでは、バック走行箇所の削減（553箇所減）や新型ドライブレコーダーの導入により、事故率の低減と安全性の向上を推進しました。
- ⑨宅配センターの電話受付業務をコープデリコールセンターへ委託したことに伴い、年間約9,800時間削減の試算となり、センター長等・経営管理課の一部業務をセンター事務担当に移行しました。
- ⑩重複コース再編（完了率83%）を進め、配達終了時間の早期化を実現しました。
- ⑪「新潟県多様で柔軟な働き方・女性活躍実践企業認定制度（Ni-ful）」において、最高位のゴールド認定を受けました。身だしなみ基準の緩和や禁煙支援など、職員が自分らしく健康に働ける環境整備を進めています。
- （注）「Ni-ful（ニーフール）」とは、新潟県が2025年度（令和7年度）に創設した認定制度の愛称です。多様な働き方や女性の活躍推進に積極的な企業を認定し、魅力ある職場づくりと地域活性化を支援する制度です。
- ⑫2030年の温室効果ガス削減目標に向け、2026年度からの電気自動車（EV）導入を決定しました。また、フードバンクや「はじめてばこ」を通じた地域支援、佐渡のトキ保護に向けた寄付金（約214万円）の贈呈など、地域社会との連携を深めました。
- （注）「はじめてばこ」とは、赤ちゃんに「生まれてきてくれてありがとう」の気持ちを込めて贈られるプレゼントボックスのことです。
- ⑬コープデリグループは、2026年2月28日に開始されたアメリカおよびイスラエルによるイランへの軍事行動と、それに伴う報復の連鎖を深く憂慮しています。国連憲章に抵触する武力行使は地域の平和を著しく脅かすものであり、すべての当事者へ敵対行為の即時中止を強く要請し、2026年3月3日付で会員生協の理事長連名による声明文を発信しました。

⑭2026年6月の新中越センター稼働に向けた準備を進めました。一方で、「コープデリでんき」や「夕食宅配の新潟製造」については、システム開発や市場環境を鑑み、2027年度以降へと計画を精査し延期しました。

2. 事業経営の状況

(1) ウイークリー（宅配）事業

① 事業状況について

	2025年度予算	2025年度実績	予算比
供給高（千円）	27,122,271	27,548,382	101.6%
発行人数（人）	6,473,442	6,523,519	100.8%
利用人数（人）	5,639,761	5,682,653	100.8%
客単価（円）	4,809	4,847	100.8%

ア. 夏季一斉休業の影響で前年実績は下回りましたが、発行人数・利用人数ともに予算比100.8%と計画を上回りました。供給高も予算比101.6%と堅調に推移しています。

イ. 新規組合員拡大に加え、注文書発行停止者への「一斉発行（年3回）」や、未利用者への架電対応、独自ポイントプレゼント企画等を継続しました。多角的なアプローチにより、年間を通じて利用人数の維持・確保に結びました。

ウ. 客単価は前年比101.4%と上昇しましたが、これは「商品値上げによる点単価上昇」が主因であり、購入点数（客点数）そのものは減少が続く厳しい構造となっています。

エ. ダイレクト宅配の供給高は8,627万円、予算比88.1%でした。

（注）ダイレクト宅配とは、一般的な宅配サービスを使って、直接組合員宅（またはご指定先）に、産地や製造メーカーなどから商品をお届けするサービスです。

② 組合員動態

	2025年度予算	2025年度実績	予算比
加入者数（人）	13,567	14,235	104.9%
脱退者数（人）	9,200	10,097	109.8%
純増（人）	4,367	4,138	94.8%

ア. 新規組合員拡大は、予算比104.9%で予算達成しました。営業部では予算比105%、宅配事業部も予算比104.4%とそれぞれ計画を上回りました。脱退数も予算を上回っており、純増数は94.8%となっています。

(2) ウイークリー（宅配）事業の取り組み

① 発行人数確保の取り組みでは、注文書停止者への一斉発行を実施し、積極的なアプローチを行うことで再利用を促し、発行人数の積み上げに結びました。

② 利用人数確保の取り組みでは、月次の試食・商品学習会による職員のスキル向上や、コミュニケーションカードの活用などの他、「クーポン企画」や「生活応援大感謝祭」などを利用強化週と位置付け、全組織で統一した取り組みで利用を促進しました。利用が落ち込みやすい時期にも新潟独自の「ポイントプレゼント」などのお楽しみ企画を実施し、利用減の抑制と継続利用に結びました。

③ eフレンズ登録推進の取り組みでは2025年度末の利用率が37.4%となり、年度末の目標には届きませんでした。年度期首からは4.1%伸長しました。引き続き加入時の案内徹底と既存組合員への日常的な推進により、登録率の底上げを図ります。

項目	2025年度末目標	2025年度末実績	年度末目標差
eフレンズ利用率	40.5%	37.4%	-3.1%

④ 商品に関する取り組みとして、「にいがたじまん」カタログで新潟を大切に商品品の品揃えや商品開発を進めました。年2回の大感謝祭では地域商品をチラシ表紙にまとめ、「新潟らしさ」を強調し、組合員の支持を得る定例企画として定着しました。原料高騰で新商品開発が減少する中、規格変更等のリニューアルを積極的に行い「値頃感のある商品づくり」に注力しました。食品に関する法令遵守を徹底する一方、豆腐の「異味異臭」によるお申し出を発生させてしまいました。さらに、品質管理の強化に努めます。

⑤ 業務品質向上の取り組みでは組合員満足度調査において、業務品質項目部門でコープデリ連合会6生協の中で第1位を獲得しました。また全8センターともに、コープデリ連合会全体の平均評価点を上回る水準を維持しました。行動指針に基づき、基本行動の定着に注力する一方、職員の多様性や働きがいを尊重するため、「身だしなみの自由度」を高める新基準を定めました。

⑥ 安全運転の取り組みでは、年間の事故件数は23件と前年から4件減少しましたが、人身事故が2件発生するなど課題が残りました。毎週の安全運転朝礼での事例共有や、月次のグループ討論型「安全運転会議」を実施しました。全164コースで計553箇所のバック箇所を削減した他、違反を動画で検知できる「無事故プログラムドライブレコーダー」を全車両の約3割に導入しました。残りは2026年度に入れ替え予定です。

⑦ 宅配事業夏季一斉休業を実施し、猛暑による配達負荷の軽減と労働環境の改善を図りました。一斉休業期間前後のお知らせに努め、供給への影響を最小限に留めました。事前のお知らせの徹底に課題を残したものの、全体として理解が得られたため、次年度も夏季一斉休業を継続します。

⑧ コープデリコールセンターの委託化を実施しました。窓口を一本化することで、組合員への対応品質を向上させ、入電対応業務の平準化を実現しました。

⑨ 新中越センターの稼働に向けた調整を進めました。2026年6月の移転・稼働に向け、「新中越センター移転連絡会議」を立ち上げました。また、佐渡センター将来構想の策定に向けた検討に着手しました。

⑩ 2024年度から着手した重複コースの解消に向けた再編は、対象830曜日で686曜日が完了し、進捗率は83%となりました。2026年度上期で全コースの完了を目指します。再編を実施したコースでは、平均24分の配達終了時間繰り上げを実現しました。

⑪ 延滞金削減の取り組みでは、長期延滞移行率は目標以下の0.13%で推移しましたが、1件あたりの延滞額が高額化する傾向にあることから、名義変更等による不適切な再加入を防止する「同一生計者の加入制限」や「強制受注停止」の運用を徹底しました。

(3) 夕食宅配(デイリー)事業の取り組み

	2025年度予算	2025年度実績	予算比
新規拡大(人)	790	721	91.3%
利用人数(人)	138,564	143,559	103.6%
食数(食)	783,276	812,295	103.7%
供給高(千円)	492,160	530,837	107.9%

① 利用人数は予算比103.6%、供給高は予算比107.9%と、ともに予算を達成しました。

② 「担当者基本行動マニュアル」の策定・運用を開始し、サービスの標準化を推進しました。また、配送を担う「ほほえみスタッフ」向けに業務指示用の「かわら版」や「安全運転ニュース」を定期発行し、コミュニケーションと安全意識の強化を図りました。

③ 改正貨物自動車運送事業法(2026年4月施行)に伴い、配達スタッフの契約形態見直しや配達コース再編を進めました。

(4) 共済・保険事業の取り組み

① 共済加入件数は前年比105.7%と伸長したものの、予算比では95.2%の到達でした。一方で、解約数の減少により収益面では予算を確保できました。

② 連携情報件数は予算比89.6%にとどまりました。加入率向上の取り組みを強化しましたが、成約に至るまでのアプローチ精度が引き続きの継続課題です。

③ 今年度より営業部のイベント出展と連携し、既存組合員への対面推進を開始しました。有効な獲得チャネルとして、次年度はさらに出展数を拡大します。

(5) 経営組織強化の取り組み

① 今後の投資案件やコープデリ連合会への抛出等に対して、外部からの借入に頼らない自己資金での財務運営が可能であることを試算にもとづき確認しました。

② 働き方を改革し、職員がいきいきと働ける環境づくりを進めました。新潟県より多様な働き方や女性登用に積極的に取り組む「Ni-ful ゴールド認定企業」として承認されました。育児・介護休業法の改正やLGBTQ対応(パートナーシップ制度導入等)に伴う規程改定を実施しました。

③ 新卒採用は、他社の早期選考の影響を受け、最終内定者は4人にとどまりました。次年度に向けては選考直後からの継続的な個別フォロー体制を強化し、内定辞退防止に努めます。

④ 健康管理対策として、健康診断の受診率100%を達成しましたが、再検査等の二次健診受診率は67.4%にとどまっており、受診勧奨の強化が課題です。

⑤ 福祉事業の検討に関わって、「生協10の基本ケア」の学習を進めました。

⑥ 「コープデリでんき」については引き続き事業化の検討を進めます。

⑦ 2カ年事業課題推進プロジェクトを立ち上げ、今後取り組むべき「2カ年重点課題」をまとめました。2026年度下期までに具体的な実施計画を策定し、2027年度からの本格実施に向かいます。

2025年度損益状況

	2025年度予算	2025年度実績	予算比(差)
総事業高	284億8,425万円	289億4,032万円	101.6%
事業総剰余金	68億1,455万円	69億1,739万円	101.5%
事業経費	66億4,469万円	65億6,624万円	98.8%
事業剰余金	1億6,986万円	3億5,115万円	1億8,129万円
経常剰余金	3億2,054万円	5億6,036万円	2億3,982万円

3. 機関運営(理事会・総代活動)の取り組み

(1) 理事会運営

① 理事会を毎月1回開催し、総代会から付託された重要事項の討議と執行を進めました。会議のペーパーレス化について研究を進め、次年度からの本格導入を目指します。

② 組合員活動推進会議と組合員理事懇談会を月次で開催し、重要事項の共有や組合員活動に関する活発な意見交換を行いました。

(2) 総代活動

① 春の総代会議は、オンラインを含む県内22会場で開催し、239人の総代が出席しました。通常総代会議案の審議に加え、第2部では「コープのここがイイネッ!!」をカードに記入するグループ交流を実施しました。

② 秋の総代会議は、県内21会場で開催し、総代238人が出席しました。上半期の事業・活動報告に加え、第2部では能登半島での災害支援活動「つながる力で能登を笑顔にアクション」の参加報告を行い、自分たちにできる支援について交流しました。

③ 2025年度総代選挙を実施し、400人の総代を選出しました。9月の総代交流会では生協の組織や総代の役割について習んだ他、「美ら島応援もずくプロジェクト」の学習・試食を実施しました。



▲春の総代会議の様子

4. 組合員活動・社会的貢献・生協間連帯の取り組み

① 「組合員・地域・他団体」との多様なつながりを軸に、持続可能な社会の実現を目指した取り組みを推進しました。地域社会に根差した活動を通じて、共感の輪である「コープの輪」を広げるアクションを展開しました。

② 組合員活動の視点として「商品でつながる」「地域とつながる」「未来へつなげる」の3点を掲げ、SDGs(持続可能な開発目標)を実現するための取り組みを展開しました。

③ 2025年の被爆・戦後80年、および国際協同組合年(IYC)という大きな節目に向け、平和と環境の取り組みを最重要課題に設定しました。次世代へ豊かな未来を引き継ぐため、理念の再確認と啓発活動を強化し、組織としての社会的役割を果たします。

(1) ほぺたんカフェ

- ①「会場型」(26 会場)と「オンライン」(2 回)を併用して開催しました。登録メンバーは合計 200 人で、多様なライフスタイルに合わせた参加の場を提供しました。
- ② コープ商品の試食や事業・社会貢献活動の紹介を積極的に行いました。商品の価値を直接体験し、生協の取り組みへの理解を深めていただくことで、コープのファン作りに結びました。



▲ほぺたんカフェの様子

(2) コープファンクラブ

- ① 隔月でお便りを発行する通信型企画「コープファンクラブ」にたくさんの方の登録がありました。直接集まるのが難しい組合員とも、お便りを通じて定期的につながりを維持し、生協の活動への理解を深めています。
- ② 「環境」「平和」「食」等をテーマに、身近にある社会課題や生協が取り組む活動を集め、情報提供しました。

(3) 各分野の取り組み

- ① 佐渡トキ応援お米プロジェクトに地元生協として取り組みました。春の田植え交流、夏のピオトづくり、秋の稲刈り交流会を通じ、組合員と生産者・行政が一体となったトキの餌場整備と環境保全活動を展開しました。11 月に開催した「コープデリにいがたフェスタ 2025」にて寄附金贈呈式を行いました。
- ② たいまつ食品(株)の協力により、組合員家族 28 人が参加する「工場見学&餅つき」交流会を開催しました。製造工程の学習や伝統的な餅つき体験を通じて、生産者と消費者の信頼関係を深めました。
- ③ 組合員から寄せられた「まごころタオル」を「魚沼牛乳」および「ゆめっ子牛乳」の生産者にお届けしました。全県で約 5,000 枚のタオルが寄せられ、組合員の想いとともにお渡ししました。
- ④ JA 全農にいがた等の協力により、「だいこんの収穫体験」「にんじんの収穫」「えのきたけの栽培施設見学」を実施しました。生産者のこだわりや栽培工程への理解を深め、産地と消費者の交流を促進しました。
- ⑤ 新潟県立大学とのコラボ企画として「親子で学ぶフードマイレージ」を開催しました。「地球とカラダにやさしいごはん」をテーマに、学生とともに環境配慮型の食生活を学ぶ貴重な機会となりました。
- ⑥ 「被爆・戦後 80 年」平和の取り組みを多彩に展開しました。日本生協連主催の「ピースアクション in ヒロシマ」や新潟県生協連が主催する「第 36 回平和集会」に参加しました。また、新潟日報社の協力を得て「子ども平和新聞プロジェクト」に取り組みました。
- ⑦ 温室効果ガス排出削減の取り組みとして、山田本部および下越センターの自家消費型太陽光発電を継続しました。2026 年度からの EV 車両導入の準備を進めました。
- ⑧ 子育て支援の取り組みとして、各エリア協議会でひろば活動を定期的に開催しました。また、多世代交流の場として中越エリア協議会で「長岡わになーれ」を開催しました。
- ⑨ 暮らしの助け合いの会は、会の愛称を「スマイルリング」として周知を図りました。2026 年度からの長岡地域での活動に向けて準備を進めました。



▲親子で学ぶフードマイレージ

(4) コープデリグループ 4 つのプロジェクト

- ① コープデリグループの 4 つのプロジェクト(美ら島応援もずく、佐渡トキ応援お米、お米育ち豚、Happy Milk)に取り組みました。佐渡トキ応援お米プロジェクトでは、地元生協としての役割を果たし、「コープデリにいがたフェスタ 2025」で寄附金贈呈式を実施しました。



▲佐渡トキ応援お米プロジェクト

(5) エリア協議会

- ① エリア協議会を軸に、「ほぺたんカフェ」の運営や、多様な組合員活動の企画・推進を担いました。年間でエリア委員研修を実施し、学びながら活動を進めました。

(6) グループ活動

- ① 従来のグループ活動を見直し、「平和・環境・子育て支援」のテーマで活動するグループを募集しました。選考を経て 10 グループを選定しました。

(7) 今後の組合員活動のあり方検討

- ① ライフスタイルの変化や活動の担い手確保の課題を受けて、組合員組織・活動のあり方検討会を立ち上げました。
- ② 県内の人口動態や就労状況等のデータを踏まえて、「組合員活動のありたい姿」の検討を進めました。

(8) 社会貢献の取り組み

- ① 子ども食堂(13 団体)・フードバンクへの食材提供を継続しました。総代会議や組合員活動の場でフードドライブを呼びかけました。
- ② 継続して未使用文具寄付キャンペーンとして取り組み 13,153 点、508.7 kg を新潟県フードバンク推進協議会に寄贈しました。
- ③ 「はがき・切手回収キャンペーン」に取り組み、348 万 1,949 円を新潟県共同募金会へ寄付しました。

(9) 組合員募金の取り組み

- ① 岩手県大船渡市山林火災支援募金：1,216 万 9,604 円
- ② ミャンマー地震緊急支援募金：660 万 5,391 円
- ③ アフガニスタン地震緊急支援募金：67 万 4,863 円
- ④ 令和 6 年能登半島地震および能登半島豪雨災害募金：640 万 9,533 円
- ⑤ ふくしま復興応援募金：174 万 6,945 円
- ⑥ 平和募金：25 万 736 円
- ⑦ ユニセフ組合員募金：73 万 5,176 円
- ⑧ ユニセフハッピーミルクプロジェクト：55 万 1,026 円
- ⑨ 佐渡トキ応援お米プロジェクト：214 万 8,456 円
- ⑩ 美ら島応援もずくプロジェクト：207 万 2,297 円

(10) 広報・渉外

- ① 広報誌「こーぷふる」、情報紙「コープデリにいがた通信」、「エリアだより」を定期発行しました。
- ② 組合員活動の様子を Instagram で発信しました。Team ECO プロジェクトメンバーやサッカー・アルビレックス新潟のオフィシャルクラブパートナーとしての活動を行いました。
- ③ 11 月 2 日に「コープデリにいがたフェスタ 2025」を開催しました。40 社以上がブースを出展し、約 6,000 人の来場者で賑わいました。
- ④ 新潟県の中学 1 年生全員に無料配布された冊子「にいがたのおしごと本」に事業内容含め紹介されました。
- ⑤ 商品カタログを閲覧することが困難な組合員を対象に、音声で情報を届ける「声の商品案内」を提供しました。朗読ボランティア「雪うさぎの会」の協力により継続しています。
- ⑥ 新潟大学附属新潟中学校の「社会課題の調査・取材を通じた総合的な学習」や新潟市立木戸中学校(東区)の校外学習「新潟フィールドワーク」に協力しました。
- ⑦ 新潟市・佐渡市・加茂市への行政訪問を実施しました。



▲コープデリにいがたフェスタ

(11) 2025 国際協同組合年 (IYC2025) の取り組み

- ① 2 回目の国際協同組合年を迎え協同組合の意義と役割を学び、アピールしました。全事業所の職員が参加するアピールコンテストを実施しました。

■ 剰余金処分案 ■

- ① 当期末処分剰余金は、4 億 8,665 万円となりました。処分内容として、法定準備金 1 億円、出資配当金 1,777 万円(配当率 0.3%)、任意積立金 2 億円(事業施設積立金 1 億円+リスク対応準備金 1 億円)とします。
- ② 次期繰越剰余金は、1 億 6,887 万円とします。

I 2026年度の位置づけ

1. コープデリにいがたとしての組織・業務運営の改革推進

2026年度は「コープデリグループビジョン2035 第1期中期計画」の最終年度となります。第1期中期計画の基本方針である「成長を支える基盤づくり」を目指すとともに、第2期中期計画に向けた協議をコープデリグループ全体で進めます。また、コープデリにいがた「新しい生協のありたい姿」の実現に向けては、コープデリにいがた2カ年事業課題の具体化に向けた取り組みを進め、コープデリにいがたの組織・事業運営の改革に繋がります。

2. コープデリグループ第1期中期計画の重点戦略

■第1期中期計画重点戦略

ビジョン2035実現に向けた第1期中期計画基本方針

成長を支える基盤づくり
事業構造の変革を進め、持続可能な生協組織・経営の基盤を改めて創ります。

5つの成長方針

1. 生協の強みを活かした総合力の発揮とつながりづくり

生活協同組合の強みを活かして、つながりとコミュニケーションを大切にしたい地域づくりを進めます。

2. サステナブル（持続可能）な社会づくりへの貢献

コープデリグループのSDGs重点目標の実現に向け、持続可能な食・暮らし、環境や平和への貢献を果たす取り組みをさらに進めます。

3. コープデリグループ全体の組織と人の成長

事業と活動を支える人材の確保を重点に、個人が尊重される組織風土と、一人ひとりが活躍できる場づくりを推進し、誇りとやりがいを持てる組織づくりを進めます。

4. 組織革新に向けてデジタル・新たな技術を活用

事業や活動の変革に向けて、宅配事業を中心としたシステムの再編を行い、デジタル技術やデータ活用を進めます。また、将来に向け新たな技術を活用した事業を創出します。

5. 信頼が高まる組織づくりと連帯推進

食の安全性確保やリスクへの対応を更に強化し、生協への信頼が高まる組織づくりを目指します。

II 重点課題

1. 「コープデリ」ブランドを新潟県内にさらに広げます

- コープデリ宅配事業のブランドを広げます
- コープデリ宅配商品の利用を広げます
- 新潟を大切にしたい商品の品揃えや商品開発を進めます
- 宅配事業の業務品質向上を図ります
- 安全運転を推進します

第3号議案

役員選任の件

第5回通常総代会の終結をもって、理事および監事全員の任期が満了となります。定款第19条および役員選任規約に基づいて、別記名簿の理事20人、監事4人を選任することを提案いたします。任期は2年です。

理事（20人）				
組合員	松本 優子	有識者	酒井 龍	
	長谷川 ひろみ		石山 真	
	馬場 真由美		牧野 茂夫	
	大柳 牧子		村山 伸子	
	田中 弘美		本間 由美子◎	
	伊藤 知里		浅井 昇◎	
	小林 かおり		事業連合	笹沼 文晴◎
	佐藤 麻耶子		常勤	登坂 康史
	永井 真寿美			風間 徹
	中丸 瑠美			中村 仁

監事（4人）	
組合員	新井 美智子
	後藤 薫
	豊田 一恵
有識者	阿部 和人

※◎は新任、それ以外は重任です。

2. 事業構造の見直しを図り、安定した経営基盤づくりを進めます

- 事業運営および本部機能の改革に向けた取り組みを進めます
- 宅配事業夏季一斉休業を実施します
- 宅配事業ウィークリー予算を達成します
- 新規組合員拡大を推進します
- 共済・保険を連携した保障事業を進めます
- 夕食宅配事業の持続可能な事業モデルの再構築を進めます
- 「コープデリでんき」新たな契約方法での調査を進めます
- EC70%に向けたeフレンズ推進に取り組めます
- 重複配達コースの整備を進めます
- 健全な運営を確立し、コープデリへの信頼をさらに高めていきます
- 経営の安定性、収益性を高めるために長期延滞金を削減します
- 新センター建設に向けた諸課題への対応を進めます
- 福祉事業の研究を進めます

3. 働き方・働く環境の改善を進め、人と組織の成長を目指します

- 事業成長を支える人材確保と育成を進めます
- 職員の働き方を改革し、いきいきと働ける環境づくりを進めます

4. 組合員参加を強め、より一層の事業・機関運営の健全化適正化を図ります

- 理事会を中心に機関運営を推進し、総代の理解と参加を広げます
- 地域とのつながり作りを大切にしながら組合員活動を通してコープのファンを増やします
- 組合員組織・活動のあり方検討を進め、「組合員活動のありたい姿」を作ります
- 多様な組合員活動の場を広げます

5. 地域とつながる・社会とつながる取り組みを広げます

- 地域支援の取り組みを実施します
- 温室効果ガス排出削減の取り組みを継続します
- 大規模災害等さまざまな状況に応じて、組合員募金の取り組みを実施します
- 県行政等と連携して地域への貢献を目指します
- 広報活動の取り組みを強めます
- 渉外活動を進めます

2026年度損益予算

	2025年度実績	2026年度予算	前年比（差）
総事業高	289億4,032万円	289億7,951万円	100.1%
供給高	281億6,549万円	282億922万円	100.2%
事業総剰余金	69億1,739万円	69億3,426万円	100.2%
事業経費（人件費）	21億1,085万円	21億6,241万円	102.4%
事業経費（物件費）	44億5,538万円	46億8,333万円	105.1%
事業経費計	65億6,624万円	66億4,575万円	104.3%
事業剰余金	3億5,115万円	8,851万円	▲2億6,264万円
経常剰余金	5億6,036万円	2億2,853万円	▲3億3,183万円



コープデリにいがた

第5回通常総代会が
開催されます

と き

6月5日（金）10:30～13:00

と ころ

ANAクラウンプラザホテル新潟（新潟市中央区）